

クボタ

令和4年度（公社）建設荷役車両安全技術協会

適用範囲		モデル名		RX-205		
		仕様		H仕様		
		適用号機		20001～		
区分	検査箇所	検査項目(条件)	単位	検査基準値		
エンジン	エンジン本体	エンジン回転速度		min <sup>-1</sup>	2400	
		ハイアイドリング		min <sup>-1</sup>	1350～1450	
		ローアイドリング		(°C)	(50≥)	
		(冷却水温)		(°C)	(50±5)	
	弁すき間		mm	0.145～0.185		
	吸気弁 隙間		mm	0.145～0.185		
排気弁 隙間		(°C)	(冷態時)			
圧縮圧力又は気筒間圧縮圧力差		MPa	2.84～3.24			
		kgf/cm2	29～33			
		(°C)	(80～90)			
		(rpm)	(250rpm)			
燃料装置		噴射ノズルの燃料噴射開始圧力	MPa	13.9～14.7		
			kgf/cm2	142～150		
冷却装置		ファン駆動ベルトの張り	mm	7		
		[測定位置・条件]		オルタネータ～クランクプーリ		
		(中間を指で押す力)	N・m	67		
		kgとNの両方で表記	kgf	7		
走行装置	走行性能	最高速度	1速	秒	15～18	
			2速		7.8～9.5	
		[測定方法・条件]			[図 No.7]	
	(クローラベルト)	履帯	ゴムベルト	張り	mm	10～15
				(たわみ量)		[図 No.5]
				[測定方法・条件]		
				L・D寸法		D
		鉄シュー	張り	(たわみ量)	mm	75～80
				[測定方法・条件]		[図 No.5]
			[測定方法・条件]			D
		リンクピッチの伸び	mm			
		[測定方法・条件]				
		履板取付け	N・m			
		ボルト締付け	kg・m	—		
		[測定方法・条件]				

クボタ

令和4年度（公社）建設荷役車両安全技術協会

適用範囲		モデル名		RX-205	
		仕様		H仕様	
		適用号機		20001～	
区分	検査箇所	検査項目(条件)	単位	検査基準値	
作業装置	作業機自然降下	バケット先端位置	(測定時間)	mm	—
			(作動油温)	(分)	
			作業装置姿勢		
			(図面番号表示)		
	シリンダ自然伸縮	ブームシリンダ	作業装置姿勢	mm	20≥
			(図面番号表示)	負荷kg	108
		アームシリンダ	mm	10≥	
		作業装置姿勢	負荷kg	108	
			(図面番号表示)		[図 No.1]
			バケットシリンダ	mm	10≥
		作業装置姿勢		108	
		(図面番号表示)		[図 No.1]	
		ブレードシリンダ	mm	20≥	
		作業装置姿勢			
		(図面番号表示)		[図 No.8]	
		(測定時間)	(°C)	(50±5)	
		(作動油温)			
作業機速度	ブーム	上げ	sec	3.2～3.8	
		下げ	sec	3.4～4.0	
	アームシリンダ	作業装置姿勢	sec	[図 No.2]	
		(図面番号表示)	伸ばし	2.0～2.6	
		縮め	2.1～2.7		
		作業装置姿勢	sec	[図 No.3]	
		(図面番号表示)	伸ばし	2.2～2.8	
		バケットシリンダ	sec	1.5～2.1	
		縮め			
		作業装置姿勢		[図 No.4]	
		(図面番号表示)			
		性能測定条件		[無負荷]	
		(荷重・設定モード等)			
油圧装置	油圧回路設定圧力	主回路設定圧力	MPa	16.7	
			kgf/cm2	170	
		性能測定条件 *油温	(°C)	(50±5)	
		(設定モード等) *エンジン回転	(rpm)	(フル回転)	
動力伝達装置	旋回ベアリング取付けボルトの	アウトレース取付けボルトの	N・m	107～117.7	
		締付けトルク	kgf・m	10.5～12	
	インナレース取付けボルトの	締付けトルク	N・m	107～117.7	
			kgf・m	10.5～12	
旋回減速機取付けボルトの締付	油圧モータ取付けボルトの	N・m	107～117.7		
	締付けトルク	kgf・m	10.5～12		
		旋回減速機取付けボルトの	N・m	—	
		締付けトルク	kgf・m		
備考					

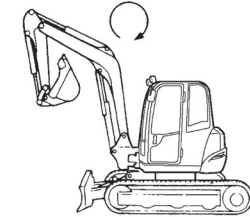
★印：新車基準値を表す。

適用範囲		モデル名	RX-205	
		仕様	H仕様	
		適用号機	20001～	
区分	検査箇所	検査項目(条件)	単位	
動力伝達装置	クレーン時の旋回速度	2回転の所要時間	秒	12.2～15.0
		エンジン回転数	rpm	1725～1875
		測定姿勢	参照図	[図番 G-001]

## 旋回所要時間の測定方法

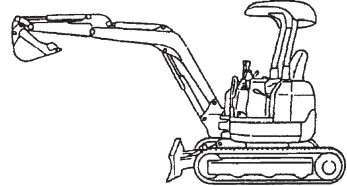
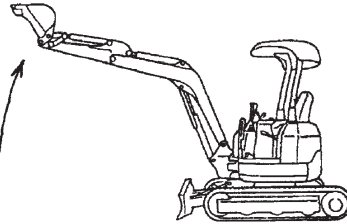
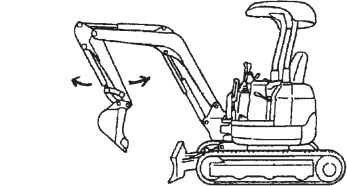
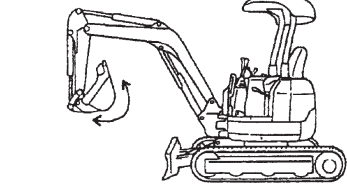
- ・測定前に左右の旋回操作を繰り返し、旋回モーターを十分温めておく。
- ・作動油温度を  $50 \pm 5$  °C にする。
- ・測定姿勢は、ブームシリンダー、アームシリンダー、バケットシリンダーを最伸長とする。
- ・旋回姿勢は、ブームを上げ、アーム掻き込み、バケット掻き込みとする。
- ・自動切替付の機種は、クレーンモードスイッチを押すと自動的に機種別のエンジン回転数になるので、2回転する時間を測定する。
- ・自動切り替え以外の機種は、エンジン最高回転で、旋回操作レバーをフルストローク操作し、旋回体が3回転する時間を測定する。

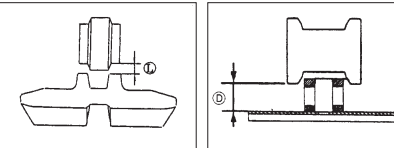
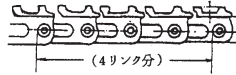
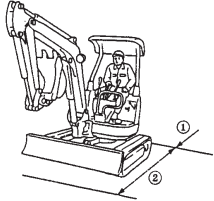
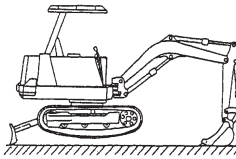
図番G-001



## 【注意】

- ・測定を開始する前に、旋回範囲内に人や障害物がないことを確認すること。

項目	測定方法
<p><b>シリンダの自然降下量</b></p> <p>〔測定要領〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 水平な場所に機械を置く。バケット山積負荷とする。</li> <li>2. アームシリンダを一杯縮め、バケットシリンダを一杯伸ばす。</li> <li>3. バケットの底面地上高さを、1m程度の位置にする。</li> <li>4. ブーム、アーム、バケットのシリンダロッドに印をつける。</li> <li>5. 10分間の降下量を、スケールで測定する。 油温：50±5℃</li> </ol>	 <p style="text-align: center;">図 No. 1</p>
<p><b>ブームシリンダ</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. アームシリンダ、バケットシリンダを最縮小。</li> <li>2. エンジンを最高回転にする。</li> <li>3. 接地→シリンダエンド間の所要時間を測定する。 注、クッション作動時間は含まない。</li> </ol>	 <p style="text-align: center;">図 No. 2</p>
<p><b>アームシリンダ</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ブーム、アームを図の状態にする。</li> <li>2. エンジンを最高回転にする。</li> <li>3. アームシリンダのフルストロークの所要時間を測定する。</li> </ol>	 <p style="text-align: center;">図 No. 3</p>
<p><b>バケットシリンダ</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ブーム、アームを図の状態にする。</li> <li>2. エンジンを最高回転にする。</li> <li>3. バケットシリンダのフルストロークの所要時間を測定する。</li> </ol>	 <p style="text-align: center;">図 No. 4</p>

項目	測定方法
<p><b>クローラの張り</b></p> <p>注) ゴムクローラの場合は継目マーク(∞)を上部中央にくるようにして調整する。 調整後1~2回クローラを回して張代を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クローラ部を浮かす</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・トラックローラの踏面と、リンク踏面とのすき間L又Dを測定する。</li> </ul> <p style="text-align: center;">図 No. 5</p>
<p><b>鉄シューリンクピッチの伸び</b></p> <p>測定方法</p>	 <ul style="list-style-type: none"> <li>・マスタピンから1~2リンク離れた4リンク分を測定する。</li> <li>・シューリンクを張った状態で測定すること。</li> </ul> <p style="text-align: center;">図 No. 6</p>
<p><b>走行性能</b></p> <p>最高速度測定方法 条件 作動油温度：50±5℃</p>	 <ul style="list-style-type: none"> <li>・走行姿勢にし、各速度の最高速度が得られるまで助走する。</li> <li>・10m間の所要時間を測定する。 ①助走 ②測定区間(10m)</li> </ul> <p style="text-align: center;">図 No. 7</p>
<p><b>ブレードシリンダ自然伸縮</b></p> <p>測定方法 条件 作動油温度：50±5℃</p>	 <ul style="list-style-type: none"> <li>・フロントとブレードを使用し上図のように車体を持ち上げる。</li> <li>・ブレードのシリンダロッドに印をつける。</li> <li>・10分後の降下量をスケールで測定する。</li> </ul> <p style="text-align: center;">図 No. 8</p>